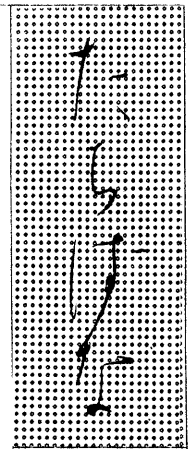

寺川地
小番
清市1
川0
宝秋1

玉清寺に泥棒が進入

本堂・庫裏に泥棒が入りました。幸い発見が早く被害はありませんでしたが、不用心ですので普段は玄関の鍵を締めておきますので、来寺の折は玄関左脇にあるチャイムを鳴らして下さい。

施餓鬼会

《棚経・施餓鬼会》

七月十三日～十六日はお盆です。お盆は当山では七月に行いますが、お檀家の皆様で八月におやりになる習慣のある方はお申しで下さい。お盆の十三日に精霊をお迎えし、十六日には精霊を送ります。そしてお盆の期間か前に棚経と言って普提寺から各家々に伺い読経をあげ供養します。

◎施餓鬼会　於当山本堂
七月十四日（水）十一時より

当日は合同法要を厳修、粗飯の用意があります。

◎お棚経は昨年まで伺っていたお宅には、本年も伺うよう予定していますが、ご都合が悪い場合はご連絡をお願い致します。新規にご希望の方はお電話でご相談の上お申込下さる様お願いします。

精進は浄らかをきめこまかしないと言う

お釈迦様は、苦しみからの解放の道を求めて、その原因と解放の方法を発見され、心のとらわれをはなれる実践として、「六つの行い」を示されました。今回はその四として、「精進波羅蜜」について解説致します。「精」は浄らかとか、きめこまかとか、米をとぐという意味です。米をとぐときに、ごみや小石を見つけたとき、まばたきをすると、見失ってしまいます。心を集中して細心の注意を集める事です。精進は浄らかをきめこまかしないと言う「六つの行い」その四・精進波

お釈迦様は、苦しみからの解放の道を求めて、その原因と解放の方法を発見され、心のとらわれをはなれる実践として、「六つの行い」を示されました。今回はその四として、「精進波羅蜜」について解説致します。「精」は浄らかとか、きめこまかとか、米をとぐという意味です。米をとぐときに、ごみや小石を見つけたとき、まばたきをすると、見失ってしまいます。心を集中して細心の注意を集める事です。さに憧れ、心にして、退歩事です。怠惰な心に対して勇猛な努力を必要とします。精進の功徳について、『四正勤』に「未だ生じない悪は生ぜしめず、すでに生じた悪は増大せしめる。」と表されています。お釈迦さまは、「もし勤めて精進すればすなわち事として難しきことなし。少水も常に流れて石を穿（うが）つがごとし」と言われています。結果を重視する努力は結果にとらわれて視野を狭くします。人生で勝利するより人生に参加した意義を知る事が大切です。

《お奉納》

石塚厳様の奥様
香純院妙澄日敬信女霊
第十三回忌法要の和、当山には藤原光信作の釈迦涅槃図があり、明治二十八年に再表装され、什物として伝わっていますが傷みが激しく困っておりました所、再々表装を奉納頂きました。当山ではお釈迦様の涅槃会には、涅槃図を本堂に掛けお釈迦様を偲んでおります。この釈迦涅槃図は寺宝として後世に伝えたいと考えております。

高木利行様のお父様が平成六年二月十九日に五十九歳という若さで亡くなられました。その父親
普照院法輝日幸信士霊
の菩提の為と言うことで本堂に特別注文の三人掛けの長椅子六台を奉納頂きました。足の不自由な方だけでなく、最近の生活様式から座布団に正座の機会が少ない状況から多くの方々に喜ばれております。

島田千枝子様の亡き御主人の御両親第五十回忌法要の和、自作の木目込み人形「高砂」を奉納頂きました。

奉納された皆様に感謝し報告させて頂きます。

墓参の心の原点

二、宗祖日蓮聖人のご追孝

日蓮聖人は、佐渡へ島流しにされた時「こんな身の上になならないうちに、どんなに日数をかけても海山を越えてでも、父母の墓に参り、得度の師道善房をどうしてお訪ねしなかったのか」（光日房御書）と嘆いておられます。赦免されて一度も鎌倉にお帰りにならなかったものの遂に、身延山に入る決意をされた時にも「身延に行く前に、故郷の房州に行ってもう一度、父母の墓を拝みたいとは思ったけれども、今は日本国中の人々に憎まれて、故郷に帰る面目もない不幸者である。しかし、法華経のお題目が世に弘まった暁には、錦を着て帰れる身となるであろうから、その時こそ父母の墓参りをしようと思っているので、今なお生国には行かぬけれども、さすがに故郷は恋しくて、吹く風や立つ雲までも、東の方と聞けば庵を出て風を身にあて庭に立って雲を見る」（同上）と記しておられます。それほどまでにお慕いになられた師の道善房が建治二年（一二七六）六月頃亡くなられた事を知った日蓮聖人は、直ちに筆を執り、師の御房に対する報恩回向のために長文の「報恩抄」一篇を著し、七月二十六日これを弟子の日向上人に持たせて身延山から房州の清澄山に遣わし、道善房のお墓の前で読み上げさせられました。その「報恩抄」の末文は「花は根にかへり、真味は土にとどまる。此の功徳は故道善房の聖霊の御身にあつまるべし南無妙法蓮華経という、有名なお言葉で結ばれています。

日蓮聖人はこの時五十五歳青年壮年時代を形容しがたい苦難のうちに送られたお身体は、次第に衰えつつあったようで房州への墓参は断念されましたが、身延ご在山中の日蓮聖人は、時々今の奥の院がある山頂に登って房州の方角に向かいお師匠様とご両親とのお墓を遙拝なされたと伝えられています。

（次号で終了です）

ご先祖に…塔婆供養を！

盂蘭盆会に際し塔婆供養をお勧め致します。お塔婆は故人の追善供養の為、遺族や親戚の方々によって立てられます。

※お塔婆のお申込は同封の葉書（料金受取人払いで、平成八年三月二十日迄有効）を利用されるか、電話・FAXで、早めにお申込下さい。

尚、今回も「たちばな」の新聞とお塔婆の申込用紙はお檀家の皆様全員に郵送いたしますが、お塔婆の申込用紙は必要な方のみご利用下さい。

お知らせ

「平成六年度管理料及び年間諸費用納入のお願い」

平成三年から管理料の納入をお願いしてから、今年で四年目に入りました。管理料は旧墓地を含め、当山の境内及び建物の整備等に使われています。御檀家全員の皆様のご協力をお願い致します。

納入方法は

☆お盆等墓参の時持参する。

☆銀行振込を利用。
（多摩中央信用金庫秋川支店）
普通預金口座番号
17-1516249

尚、金額や納入の有無等、不明の方はお尋ね下さい。

★墓参用お花・お線香を常備★

お線香（十三日～十七日）
お花一束　八〇〇円
お線香　一〇〇円

玉清寺
住職　石井　前琇
秋川市小川一〇一
局番（〇四二五）
TEL　五八一二六六三
FAX　五八一六三八七